

**4K/120P 撮影対応のデジタルシネマカメラ“EOS C70”を発売
CINEMA EOS SYSTEM 初の RF マウント採用により小型・軽量を実現**

キヤノンは、映像制作機器 CINEMA EOS SYSTEM の新製品として、RF マウントの採用により小型・軽量設計^{※1}と多彩な映像表現を実現した、4K/120P のハイフレームレートの動画を記録可能なデジタルシネマカメラ“EOS C70”を 2020 年 11 月中旬に発売します。



EOS C70
*「RF24-105mm F4 L IS USM」装着時

新製品は、小型・軽量設計を実現するため、CINEMA EOS SYSTEM のカメラとして初めて EOS R システムのレンズマウント「RF マウント」を採用したデジタルシネマカメラです。CINEMA EOS SYSTEM の基本性能を継承しながら、高い操作性や機動性を兼ね備え、映像制作や放送用コンテンツ制作など、多様な撮影スタイルに対応します。

■ RF マウント採用による小型・軽量設計と多彩な映像表現

小型・軽量設計を実現するため、CINEMA EOS SYSTEM のカメラとして初めて RF マウントを採用し、EOS R システムの交換レンズ「RF レンズ」を装着することができます。また、別売りの「マウントアダプター EF-EOS R 0.71×」（2020 年 11 月下旬発売予定）を装着することで、従来の「EF レンズ」シリーズ^{※2}の多彩なレンズ群も装着でき、撮影意図に応じて多彩な映像表現が可能です。

■ プロの映像制作に応える高画質な 4K 映像

4K スーパー35mm の CMOS センサー「DGO (Dual Gain Output) センサー」を搭載し、明暗差の大きい環境でも、像ブレがなく、豊かな階調を持つ 4:2:2 (10 ビット) の高画質な 4K 映像を撮影することができます。また、高速処理が可能な映像処理プラットフォーム「DIGIC DV 7」を搭載し、4K/120P のハイフレーム動画を UHS-II 規格に対応した SD カードに記録できます。

■ 快適な撮影を実現する各種仕様や機能

SD カード用のデュアルスロットを採用し、バックアップのための同時記録やプロキシの同時記録、リレー記録や 4K/2K の同時記録など、多彩な記録モードを備えています。ディープラーニング技術を用いて開発した被写体認識アルゴリズムを搭載することにより「デュアルピクセル CMOS AF」時に被写体の頭部を検出して安定した追尾を実現するほか、タッチパネル操作で素早く撮影設定を変更できる「ダイレクトタッチコントロール」機能など、快適な映像制作ワークフローを実現する各種機能を搭載しています。

製品名	希望小売価格	発売日
EOS C70	オープン価格	2020 年 11 月中旬

※1 本体寸法は約 160.0mm (幅) × 130.2mm (高さ) × 115.9mm (奥行き)、本体質量は約 1,170g。

※2 EF レンズシリーズのうち、RF レンズ、EF-M レンズ、EF-S レンズを除く。

- 一般の方のお問い合わせ先：キヤノンお客様相談センター 050-555-90006
- CINEMA EOS SYSTEM ホームページ：canon.jp/cinema-eos

<主な特長>

1. RF マウント採用による小型・軽量設計と多彩な映像表現

- ・ 大幅な小型設計を実現するため、CINEMA EOS SYSTEM のカメラとして初めて RF マウントを採用し、EOS R システムの交換レンズ「RF レンズ」を装着することが可能。本体寸法は約 160.0mm（幅）×130.2mm（高さ）×115.9mm（奥行き）、本体質量は約 1,170g と小型・軽量設計を実現。
- ・ 約 6mm の薄型設計を実現した電動式の ND ユニットの新たに開発。薄型ながら従来の CINEMA EOS SYSTEM のシネマカメラと同等の 5 段階（拡張モード時）の明るさ調整が可能。
- ・ ボディー内電子手ブレ補正と、対応するレンズ内の光学式手ブレ補正との相乗効果でさらに優れた補正効果を発揮する「コンビネーション IS」を CINEMA EOS SYSTEM で初めて実現。
- ・ RF レンズ装着時は、被写体までの距離をモニター上にバーと数値で表示可能。
- ・ 小型ボディーながら、タイムコード入出力端子、オーディオ入力用の 2 系統のミニ XLR 端子など各種インターフェースを搭載。プロの映像制作ニーズに対応。
- ・ 別売りの「マウントアダプター EF-EOS R」シリーズのアダプターを介して、従来の EF レンズシリーズの多彩なレンズ群が装着可能。縮小光学系を採用する別売りの「マウントアダプター EF-EOS R 0.71×」装着時は、フルサイズに近い画角で撮影でき、集光効果により開放 F 値が約 1 段分向上。



ボディーの奥行きを短縮した小型設計

2. プロの映像制作に応える高画質な 4K 映像

- ・ 1 つの画素出力に対して異なるゲインで出力することで低ノイズの HDR 動画を生成する、4K スーパー35mm の CMOS センサー「DGO センサー」を搭載。明るい部分は飽和優先アンプ*の画像を使い、暗い部分はノイズの少ないノイズ優先アンプの画像を使うことで、撮影した画像を HDR 合成し、低ノイズを実現。明暗差の大きい環境でも、像ブレがなく、豊かな階調を持つ高画質な 4K/60P の映像を撮影可能。
- ・ 豊かな階調を持つ 4:2:2 (10 ビット) の 4K 記録が可能。
- ・ 高速処理が可能な映像処理プラットフォーム「DIGIC DV 7」の搭載により、4K/120P のハイフレームレート記録が可能。スロー再生時でも滑らかな映像表現ができるなど、プロの映像制作に応える多彩な映像表現を実現。

※ 入力された電気信号を増幅する機能を持つ電子回路のこと。

3. 快適な撮影を実現する各種仕様や機能

- ・SDカード用のデュアルスロットを採用。バックアップのための同時記録、プロキシの同時記録、リレー記録、4K/2Kの同時記録など、多彩な記録モードに対応。
- ・ディープラーニング技術を用いて開発した被写体認識アルゴリズム「EOS iTR AF X」をCINEMA EOS SYSTEMのカメラとして初めて搭載。「デュアルピクセルCMOS AF」時の顔検知AFにおいて、従来の顔検出に加えて、頭部検出アルゴリズムによって、安定して被写体を検出し、追尾の信頼性を向上。
- ・タッチパネル操作で素早く撮影設定を変更できる「ダイレクトタッチコントロール」機能を初めて搭載。これまで階層構造になっていた撮影設定を素早く変更可能。
- ・なめらかにゲイン切り替えを行うことができる「DGOセンサー」の特性を活かし、自動で感度調整を行う「オートISO機能」をCINEMA EOS SYSTEMのカメラとして初めて搭載。明るさが大きく変わる屋内から屋外の移動などでの撮影時に、絞り値などのカメラ設定を気にせず、フレーミングに集中した撮影が可能。



「ダイレクトタッチコントロール」のイメージ

4. さまざまなニーズに応える HDR 方式やビデオフォーマット対応

- ・高画質な動画を効率的に記録するビデオフォーマット「XF-AVC」に対応。圧縮形式は「Intra Frame^{※1}」と「Long GOP^{※2}」に対応し、編集作業の効率化をサポート。
- ・扱いやすく汎用性の高いビデオフォーマット「MP4」にも対応。「MP4」使用時は、「H.264/H.265」の両方の圧縮形式を採用。
- ・キヤノン独自の Log ガンマ「Canon Log 2」「Canon Log 3」を搭載。撮影後のカラーグレーディングで画質の作りこみを行うことを重視した「Canon Log 2」と、階調を整える程度の簡易なカラーグレーディングを可能にする「Canon Log 3」を備えることで、映像制作の意図に応じて最適な Log ガンマを選択可能。
- ・HDR 方式は「HLG (Hybrid Log-Gamma)」と「PQ (Perceptual Quantization)」に対応。

※1 1フレームごとに圧縮する高画質な圧縮形式。カット編集や映像の切り出しなどの編集に適する。

※2 前後のフレームの差分を圧縮するフレーム間圧縮形式。高圧縮で長時間の録画ができる。

<ご参考：CINEMA EOS SYSTEM のデジタルシネマカメラについて>

キヤノンは、2011年11月、映像制作用のレンズやカメラで構成するCINEMA EOS SYSTEMを新たに立ち上げ、2012年1月にデジタルシネマカメラ初号機「EOS C300」を発売し、ハリウッドをはじめとする映像制作市場に本格的に参入しました。同年内に、上位機種「EOS C500」、小型軽量機種「EOS C100」、デジタル一眼レフカメラ「EOS-1D C」を発売し、CINEMA EOS SYSTEMのラインアップを拡大しました。その後、「EOS C700」、「EOS C200」など新たなラインアップを加えながら、5.9Kフルサイズセンサーを搭載した最上位機種「EOS C700 FF」を発売し、4K化やHDR制作、ワークフローの多様化など、大きな転換期を迎える映像制作の世界において、高精細な映像表現を求める制作現場の多様なニーズに応えてきました。

近年は、5.9Kフルサイズセンサーを搭載した「EOS C500 Mark II」と4Kスーパー35mmのCMOSセンサー「DGOセンサー」を搭載した「EOS C300 Mark III」という共通モジュールデザインを採用する2機種を発売し、幅広いコンテンツの制作に対応しています。

このたび、キヤノンは、大幅な小型設計を実現するためRFマウントを採用した“EOS C70”を投入することで多様な撮影スタイルに対応するとともに、シネマカメラのラインアップを強化します。高品位な映像が求められる映画やドラマから、機動力が重視されるニュースやドキュメンタリーまで、映像制作現場におけるプロの幅広いニーズに応え、映像文化の発展に貢献していきます。

製品名	発売年月
EOS C300／EOS C300 PL	2012年1月より順次 ^{※1}
EOS C500／EOS C500 PL	2012年10月 ^{※1}
EOS C100	2012年11月 ^{※1}
EOS-1D C	2012年12月 ^{※1}
EOS C100 Mark II	2014年12月 ^{※1}
EOS C300 Mark II	2015年9月
EOS C700／EOS C700 PL／EOS C700 GS PL	2016年12月より順次 ^{※2}
EOS C200／EOS C200B	2017年7月
EOS C700 FF／EOS C700 FF PL	2018年7月
EOS C500 Mark II	2019年12月
EOS C300 Mark III	2020年6月
EOS C70	2020年11月（予定）

※1 生産終了。

※2 「EOS C700 PL」は国内未発売。

デジタルシネマカメラのラインアップ

<映像制作機器の市場動向>

映像制作ワークフローの4K化とともに、新しい映像表現に向けてユーザーの撮影スタイルが多様化しています。そのため、映像制作機材として、小型でありながら高画質で高い操作性を兼ね備えたカメラへのニーズが高まっています。（キヤノン調べ）

<主な製品仕様>

製品仕様の詳細は、ホームページをご参照ください。